

日本経済新聞(夕刊)

2020年(令和2年)8月8日(土曜日)

お盆の過ごし方 注意点は



新幹線ホームでは除菌シートが配られた
(8日午前、JR東京駅)

「身内でもマスクをくまなく着用し、一定の距離を保ってほしい。感染症に詳しい国立感染症研究所の松本哲哉教授が強調する。帰省先で高齢者と接する場合は対応だ。」

政府の新型コロナウイルス対策分科会は「お盆休みの帰省は高齢者との接触や飲食の機会が多くなる」として、大人数の会食を控えるほか「オンラインの会食は長時間になりや

す、感染リスクも高まる。参加人数を最小限にとどめ、飲食が長時間にならないように気を付ける必要がある」とい

「身内でもマスクをくまなく着用し、一定の距離を保ってほしい。感染症に詳しい国立感染症研究所の松本哲哉教授が強調する。帰省先で高齢者と接する場合は対応だ。」

今年も秋の長引いた影響で、夏休みが短い学校が多い。藤井准教授は「生活リズムの変化が激しいと子どものストレスを大きく感じる」とも指摘。「宿題が出ている

帰省 高齢者と距離保つ 在宅 子のストレス解消

新型コロナウイルスの感染が再拡大するなか、8日から本格的に始まったお盆休み。帰省の注意点として専門家が強調するのが「高齢者の感染リスク」だ。帰省を見送った場合は

子どものストレスにも気をつけたい。「地元の魅力を見直し、参加人数を最小限にとどめ、飲食が長時間にならないように気を付ける必要がある」とい

くても勉強は毎日決めた時間にするなど、できるだけいつも通りの生活リズムを保つよう心がけてほしい」としている。

帰省する際のコロナ対策

-  他人が触れた手すりなどに触った場合は手指の消毒を
-  会食はなるべく少人数で行い、長時間の集まりは控える
-  高齢者と接するときは身内でもマスクを着用し、距離を保つ
-  帰省前に体温をチェックし、熱があれば帰省を中止または延期する

日常生活の場はあまりに身近で魅力に気付かないことが多いが、ロケットサイトやSNS(交流サイト)で検索すると、外国人から評価が高いのに地元では知られていないなどの「穴場」が多く存在するという。地元にある寺の歴史をひもといたら重要人物が祭られていた「など、新たな発見につながることもある。吉田社長は「地元は何かないか」と意識し、ゆくりと街歩きしてみたい